令和３年度第２回大分県総合教育会議 議事要旨

【日 程】

日 時　令和３年10月27日（水）

　　開会15時30分　閉会16時50分

場 所　県庁本館４階　第一応接室

【出席者】

総合教育会議構成員 大分県知事　　広 瀬 勝 貞

大分県教育長　　岡 本 天 津 男

大分県教育委員　林 浩 昭

大分県教育委員　岩 崎 哲 朗

大分県教育委員　高 橋 幹 雄

大分県教育委員　鈴 木 恵

大分県教育委員　岩 武 茂 代

【協議事項】

（１）地域とともにある学校づくりについて

（２）スペースポート構想と教育との連携について

【報告事項】

（１）特別支援学校の再編整備の進捗状況について

【議事要旨】

協議事項（１）地域とともにある学校づくりについて

〇社会教育課長　（資料に沿って説明）

〇義務教育課長　（資料に沿って説明）

〇高校教育課長　（資料に沿って説明）

〇広瀬知事　資料説明を踏まえまして、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

〇高橋委員　私も昔、学校運営協議会の委員をやりましたが、義務教育と高校とでは若干温度差があるのかなと思ってます。地域の人口減少とか、学校の規模によっても大きく変わってきますし、地域住民との輪を考えると小規模の方が話が早いといいますか、大きな規模になると色んな校区で自治会長さんも意見の相違があったりします。うまくそういうところをまとめていったり、学校の校長先生のイニシアチブがすごく重要になるのかな、と思います。

〇林委員　コミュニティスクールが小・中学校にかなり入ってきて、色んな議論がされてて、高橋委員がおっしゃったように色んな問題もあると思うんですけど、まず１つは、どんな子どもを育てていくのかという議論がすごくなされてると思うんですよね。中学校の校長先生に聞いても、どんな子どもを育てたいかっていうビジョンが分かりにくいっていう先生もいらっしゃる。私も色々な人に話を聞いたりして、やっぱり地域で最高の教育をしていい学校にいかんと悪いぞって言うんですけど、一方で、あんまりいい学校にいってしまうと地元に残らないじゃないかということをおっしゃる方もいます。非常に矛盾した考えがあるんですよね。私もすごく悩むんですけど、だからそのために、地域の課題を若いときから認識するような子どもを育てていく、それで最高学府なり、ニューヨークでそういうことを研究したり、そういうことをやりながら地元のことも忘れないっていう子どもを育てていく。最初にどんな子どもを育てるかっていうビジョンをよく議論しておくのがとても大事かなというの

を日頃から感じています。そうしないと子どもが戸惑ってしまうんではないかなと思います。

○高橋委員　先日、先ほど知事も言われていた姫島村に地域別意見交換会で行ってきました。今の時代、コロナもありリモートで仕事ができるような職も多くなっています。たとえば、私の娘はアニメーターになって、通信環境があればどこでもできるような仕事をしています。地域のコミュニティで育った子ども達が大分に帰ってくるような職業選択を考えてあげると、地域に戻ってくるのかなと思います。廃校の跡地にインターネットサービスの会社を入れたり、都会にいなくてもできるような仕事とか、そういうのも一つは必要なのかなと。姫島村もそういうのをやってる例があるので、こういうモデルケースも増えればいいのになと思いました。

○広瀬知事　地域に愛着を持って、地域で暮らしを楽しんでくれればいいんだっていう教育と、しっかり勉強して、希望のところにちゃんと行けるような教育をしないといけないと、２つあると思うんですけど、どっちが教育として大事なんでしょうね。

○岡本教育長　両方大事です。バランスをとるのかなと。やっぱりふるさとへの愛着っていうのは、持たせる必要が絶対あると思いますが、勉強・学生生活する中で、最高学府に私は行きたいという生徒がいれば、その子はそのようにちゃんと誘導してあげる。逆に地元で貢献したいという生徒もでてくると思います。ちゃんと進路を間違えないように、先生には誘導していただいて、夢が叶う方向に持って行くというのが私どもの責務だろうなと思っています。難しいですけど。

○広瀬知事　たとえば老人施設を訪問してお年寄りと話をすると、それは人間として大事なことで、持っとかないといけない優しい気持ちだと思うんだよね。それはそれで地域の教育としていいことだし、それと学業とは矛盾するものではないような気がするんだけど、限られた

時間の中で地域の人に何をしてもらうかっていうのは大変だよね。

○岡本教育長　その場面で「協育」ネットワーク、こちらの出番があるんだろうと思っています。地域の方々、これには地元企業もちゃんと入っていただいて、幅広く地域のことについて知ってもらう。そこを全部学校にさせると先生方がパンクしてしまいますので、地域の方や企業が役割分担で負っていただくというふうになっていけば、非常にいいんだろうなと思います。

○広瀬知事　姫島村の小中学校で、放課後、先生以外の地域の方が教えてるじゃないですか。あれは「協育」ネットワーク？

○岡本教育長　そう捉えていただいて結構だと思います。

○広瀬知事　ああ、そういうことか。保護者としてはあっちやってもらった方がありがたいだろうな。

○岡本教育長　姫島は私も小中学校を初めて拝見しましたけど、ゆったりした間取りでとてもいい環境だなというふうに思いました。

○広瀬知事　岩崎先生、いかがですか。

○岩崎委員　基本的には大きなところで捉えると、人口がこれだけ少なくなっていて、地域間競争が起きてますので、大分県全体あるいは地域が衰退しないようにするためには、学校でちゃんとした基礎学力を提供できるようにすることは、かかせないと思っています。それの意識はちゃんと持っていただいて、教育委員会は大分スタンダードということでそれを徹底していくべきだと思います。資料の１－１に「未来創生塾」というのがありますが、「協育」ネットワークで補充学習等、基礎学力の点を補充してくれるという点で重要だと思います。一方で、郷土愛をどうやって持っていただくかというところにも、「協育」ネットワークが非常に大きな力を持っていると思います。地域からすると非常に人口が少なくなっていて、

お祭り一つにしても担い手がいなくなってきている。そういうところに地域の方々が児童生徒を含めて協力してくれっていうことで色々要望が出てくる。もう一歩踏み込んで、地域づくりとかまちづくりまで、お互いに協力し、地域の要望に合致するようなことができる。

我々としたらコミュニティスクールは活用のしがいのある制度だなと思います。

○広瀬知事　確かに成長していく過程で大事な人間の厚みとか懐の深さみたいなところは、コミュニティスクールみたいなところで鍛えられると違いますよね。接し方がね。

○高橋委員　大人と話す事が重要だと思うんですよね。おじさんたちから神楽舞とかの伝承文化について指導を受けたりだとか、そういうのが一番大切で、それがやっぱり知事の言われた人間の厚みというものにつながる。核家族化が進んでますので、おじいちゃんやおばあちゃんとあんまり話さないじゃないですか。そういうところで目上の人と接して、地域のこと色々聞いたりするのもすごく勉強になると思います。それが将来的に、また地元に帰ってこようかなというのになるんじゃないかと思います。

○岩武委員　私は高田高校の校長をしていたんですが、豊後高田市は学びの２１世紀塾ということで、どこよりも先駆けて生徒の学習支援とか、地域での色んな学習以外の活動とかをやってる地域なんです。私が高田高校に赴任したときに、豊後高田市から高田高校の支援をするので、どういうことをやりますかという投げかけがありまして、色々とやらせていただんですが、豊後高田市はそんなことが自然にできる雰囲気があって、子ども達は地域に大切にされて育ってきてる。だから、子ども達もとっても素直だし、例えば高田高校だと地域や若宮神社の清掃活動をしたりするんですけど、子ども達はまったくそれを厭わずに、自然な形でやれるんですね。親御さんも子どもさんが小さいときから学校に協力する体制ができているので、ＰＴＡの参加率も１００％近く、そういう学校は県下でもすごく珍しい。地域でコミュニティスクールや「協育」ネットワークっていう形で大切に育んでいく努力っていうのは

本当に大切だと思います。仮に外に出て行っても地域を愛する気持ちがあれば、必ず地域に貢献しようという気持ちがでてくるんじゃないかなと思います。コミュニティスクールや「協育」ネットワークっていうのは、これからしっかり根付かせていかないといけない仕組みだなと思います。

○鈴木委員　私は愛知県から移住してきたんですが、愛知県ではこういう取組があまり積極的にされていませんでした。そういう意味では、大分に来てからＰＴＡ活動だとか、地域が子どもを育てるっていう感覚の中で子育てが出来たと思っています。地域の宝として子どもを扱ってくださるので、悪いことすれば叱ってくれますし、良いことをすれば褒めてくれたりとか、本当に地域の方に育てられたと思っています。ただ、地域の課題をあまり子ども達に押しつけると、その地域に魅力がないと思いがちで、ここで生きていくのは難しいんじゃないかと子ども達も思うんですね。先日、大分上野丘高校の生徒さんがうちに視察に来ていただいて、農業についてのお話をしたんですけど、大分の産業を知らない学生さんが多かったです。田舎でもできることがあるんだよっていうことを私はどうしても伝えたくて、いずれ行政を担うことになるかもしれない子ども達だと思って、大分のことを知ってもらうためにお話をしたんですけど、大分にもこういう企業があったんだとか、大分でも仕事ができるんじゃないかとか、県外を目指していたけど大分の方にも目を向けようと思うとかっていう感想をいただきました。もっとしっかり周知しないと、どんどん外に出していくだけでは、子どもが残らないと思うので、そういうところの努力は県内企業でもしないといけないんじゃないかなと思いました。

○林委員　少子高齢化の問題っていうのは、最先端の社会的な問題なんですよね。これをどう解決するかっていうことを、大学で勉強したり、研究していけば全く新しい社会が作れるっていうような考え方にするといいんじゃないかなと思います。ネガティブに考えないで、非常

に難しい問題ですけど、どこに課題があるのかということに気がつけば理系・文系に限らずに今一番世の中で難しい問題を解くことができるんだって、そういうような考え方に持って行くのがいいんじゃないかなと思います。

○広瀬知事　答えを与えるんではなくて。

○林委員　そうですね、誰も分からない、みんな困ってる問題ですよね。そういうところが今の少子高齢化のところで一番顕著に表れてるんじゃないかなと思うんですよね。だから問題を一番捉えやすい。

○広瀬知事　鈴木委員の言うとおり、課題があんまりありすぎると嫌になりますね。庄内神楽とかも「協育」ネットワーク？

○岡本教育長　「協育」ネットワークですね。１１月１日「おおいた教育の日」に国東で披露してもらう太鼓もまさにこれにのって、伝統文化を継承しようというものです。お年寄りだけで、誰が後を継げるかというときに小中学生なら地元にいますから、若いうちからこういうのがあるよねっていうことで覚えてもらうことで、愛着につながると思っています。

○高橋委員　伝統文化だけはぜひ継承して、残していただきたいなと思います。

○広瀬知事　色々な活動がありますけども、まちづくりみたいなものに生徒が関わるというのは、相当いきわたってるの？

○岡本教育長　だんだん活動例はでてきているというところです。分かりやすいところでは防災でして、資料に佐伯彦陽中学校が出ていたと思うんですけど、もともと市で指定されていた避難場所が非常に遠く離れたところで、生徒達が一生懸命研究をしまして、すぐ裏手の山の土地を所有者が気持ちよく提供してくれたり、草刈りや整地といったところで地場企業や市役所も協力してくださって、生徒はもちろん、周辺住民も一時避難ができるぐらいのスペースを作り上げたというものです。内閣総理大臣表彰をいただいています。各地で防災関係の

取組、五馬中学校もそうですけど、児童生徒が中心になって、それに地域の住民がつられていくというような動きになっていまして、良い動きだなというように思っております。

○広瀬知事　なるほど。ではこの議題はこの程度にいたしましょう。ありがとうございました。

協議事項（２）スペースポート構想と教育との連携について

○教育改革・企画課長　（資料に沿って説明）

○社会教育課長　（資料に沿って説明）

○高校教育課長　（資料に沿って説明）

○広瀬知事　それでは皆さんにご議論いただきたいと思います。Ｏ－Ｌａｂｏの話がありましたけど、やはり宇宙については相当関心が深いですか？

○後藤社会教育課長　応募も非常に多くて、申し訳ないのですが参加をお断りするケースも出ています。

○広瀬知事　大分の人だけでなく、地方の人も聞けるの？

○後藤社会教育課長　ＳＴＥＡＭ講座については、全県から集めてまして、県下各地から参加いただいてます。課題としまして、大分・別府両市からの参加者が８割を占めるということで、昨年から県下各地で講座を展開するようにしております。

○広瀬知事　宇宙というのは、頭の中で考えても全然分からないし、目で見るとこんな美しいものはないんだけど、子ども達の反応は目で見ながらどんどん想像が広がっていくっていう感じなんですか？

○後藤社会教育課長　特にＳＴＥＡＭ講座の１回目では、ＪＡＸＡあるいは東京の科学館と遠隔で、実際の映像を交えて先生方が説明してくださいました。本当に分かりやすい講座を展開しておりますので、子ども達の関心も非常に高くなっております。

○林委員　県内にも安岐町や佐賀関にいい天体望遠鏡がありまして、そこには小惑星に名前がつ

いてる星の研究者もいらっしゃるんですよね。ぜひ県内の人材も活用しながら、ＳＴＥＡＭ教育や宇宙についての学習を進めていくことが大事だと思います。先ほどの資料２－３に８月２１日に実施した特別講義①というのがあります。先哲史料館の久保先生が特別講義をしてるんですけど、三浦梅園と麻田剛立という天文学に造詣のある江戸時代の研究者が大分にいて、色々研究をしていたっていうことを詳しくお話されたということでした。大分に宇宙港ができるというのは唐突な感じですけど、実は日本のどこにも負けないぐらいの素材が江戸時代から国東半島にはあったということを先生には話していただいたんだと思うんですけど、そういったことをもっともっと検証していくと、現在の天文学に通じるような話になって、大分空港のスペースポート化の意義っていうのを考えるときに、子ども達に大きな意味を持つんじゃないかなと思いました。

○広瀬知事　江戸時代に日食の日を計算したっていうのはすごいですよね。

○高橋委員　何年か前にアニメで宇宙兄弟っていうのがあったんですけど、それを見て、当時の佐賀関小学校の児童が宇宙関連の職に就きたいと猛勉強を始めまして、結局違う企業に入ったんですけど、それだけやっぱり影響力があったんですね。佐賀関中学校でＪＡＸＡの講演会をしていただいた際には、画像や小さな模型を見る子ども達の目の色が違いました。宇宙というと目に見えないんですけど、足下にあるような大分県の物産をどうやったら宇宙に持って行けるのかとか、宇宙空間で滞在するときにどうやったら食べられるかとか、そういう研究も面白いんじゃないかなと思います。そういうところからとっつきやすく、宇宙に行くためにはどういう勉強をすればいいかとか、それをきっかけに科学とかを学ぶようなきっかけになればいいのかなと。色んな分野が広がるじゃないですか。それもまた面白いのかなと。

○広瀬知事　宇宙って非常に簡単なところから難しい問題まであるじゃないですか。Ｏ－Ｌａｂ

ｏではレベルを考えながらやってるんですか？

○岡本教育長　講師役には、これぐらいの年代の子どもであれば、これぐらいの初歩的な話に留めておこうか、次の段階に進むときにはちょっとレベルを上げてというようなところで、工夫していただいています。最初は関心をもたせるように、２講目からじわじわとレベルをあげていくというような教え方をしています。ＪＡＸＡの方にもたくさん来ていただいてるんですけど、こちらの菊池優太さんという方は、出身が竹田でして、竹田高校を出て、スポーツ系の学部を経てＪＡＸＡに入られた。宇宙食として日本食をどうするかっていう研究をされていて、いずれ飛行士になる可能性もある。竹田に愛着を持っている方で、大分に来て講演していただくと、大分は水のおいしくていいところだよ、というふうな褒め方もしながら、子ども達にとても分かりやすい良い話をしていただいてます。

○岩武委員　思いつきなんですけど、大分県には科学博物館みたいなところがないので、宇宙科学博物館みたいなものを国東のスペースポートの近くに作るといいんじゃないかなと思いました。今言われているようなＯ－Ｌａｂｏの取組の他にも、宇宙に関することを、そこで体験的に学習できるようなところが。子ども達はテーマパークがものすごく好きですので、そういう宇宙科学博物館に少し遊園地的な要素とか、ちょっと宇宙に関連したような遊びのルームとかがあると、すごく集まると思うんですよね。子ども達はそういうものがあると一気に関心を持ちますので、学校で教えるよりは遊びや経験の中で関心を育てると、とてもいいんじゃないかと思います。そういうところに研修施設や宿泊施設があって、勉強したりするようなところが国東にできれば、県内だけでなく他県からも人はきっと集まってくると思います。それが軌道にのれば、最終的には国東高校に宇宙科学科みたいのができるといいなと思いました。

○高橋委員　ＨＡＣＣＰ基準というのはＮＡＳＡの取組からできたもので、理由の一つは感染症

が宇宙ステーションの中で広まったら、全員がかかって死んでしまうので、そういうことから衛生管理をきちっとしていこうっていうものなんですね。宇宙と関係するものとしてそういう基準があるということを教えたら、高校生にとってもとっつきやく、面白いかなと思います。

○林委員　外国から技術者や研究者が大分県内に長期滞在する可能性がある。そのときにどうやっておもてなしするか、国東の癒やしの空間をどうやって提供するか、観光とかおもてなしの部分っていうのは大事だなって思ってます。もしかしたら子ども達との対話っていうのもいいかもしれないです。それをやるには、国東半島はとてもいい場所かなと思います。

○広瀬知事　宇宙って色々波及効果が大きいですよね。大分県でも４つばかり中小企業が「てんこう」の開発に携わったんですが、打ち上げ成功後には学生から就職志望がすぐに来たそうです。それから、私がオーストラリアに遊びに行ったときに街中にタワーがあるので行ってみると、下から扇風機が回ってまして、その中に入るとスカイダイビングのような無重力飛行みたいな体験ができる。ああいうのがスペースポートの隣にあったらものすごくいいかなと思います。そういう色んな波及効果があるので、そのへんを子ども達の夢と一緒に膨らませていったら面白いんじゃないかなと思ってるんですけどね。

○鈴木委員　昨日、公共事業の事業評価委員で現地視察にいったんです。竹田市の荻町でＩＣＴを使った重機、ＧＰＳだけでなくＧＮＳＳで自己位置を計測して、１センチ未満の誤差で整地ができるっていうのを見させてもらいました。衛星がきちんと打ち上げられて機能してないと、その機械は動かないんですけど、こういうことが私たちの生活に紐付いていて、宇宙への理解というか宇宙での仕事が成り立つということが、子ども達にも分かるんじゃないかと思って、子どもに見せたいなと思いました。身近に宇宙が関わってるっていうこと、例えば携帯電話やカーナビにＧＰＳが使われてるっていうことも、意外と普通に生活してたら気

がつかないので、そういったものの仕組みが分かっていくと、子ども達により興味がわいて、何を勉強したらいいかとかが分かるんじゃないかなと。そういうことを教えてあげるのがいいんじゃないかなと思いました。

○広瀬知事　その宇宙とのつながりを子ども達に教えないと興味がなかなかわかないですよね。

○林委員　農業分野だとＧＰＳで動くトラクターとか宇宙から農作物の出来を見るリモートセンシング、海の方だと赤潮の発生具合や魚群探知機とか、色んな分野に波及するっていうのは知事がおっしゃったとおりだと思います。実際に既に使われてるんだっていうことも言っていく必要があると思いますし、そういう技術者を呼んできて講義するのもよいかもしれないですね。先日、安岐中学校で世界農業遺産の講義に行ったんですけど、そのときに農業分野でもＡＩが使われてますよって言ったら、実際どういうことに使われてるんだろうということにすごい興味を持っていました。子ども達は色んなことに興味を持ってると思うので、一人ひとりがどこかにひっかかっていくっていうのがいいんじゃないでしょうか。宇宙、ロケットっていうところで色んな分野にひっかかっていく可能性がありますので。それから私はいつも朝早く起きて、空を見るんです。今ちょうどオリオン座が真上に見えるんですけど、流星群がいっぱいありまして、すごく綺麗ですので、ああいうのを見るだけでも世界観が変わると思いますね。

○岩崎委員　スペースポートっていうのは、子ども達に夢を語りやすいテーマだと思うんですね。できたら第１号の打ち上げに際して、なにか明るい演出をしたらいいんじゃないかと思ってます。たとえば、映画音楽のオーケストラをやってもらって、それに合わせて一緒に皆さん方がやっていくような企画があるといいなと思いますね。スターウォーズのオーケストラをやったりすると、子ども達は大変喜ぶんじゃないかと期待はしてるんですけど。

○広瀬知事　子ども達は何がいいですかね？

○岡本教育長　１人１台端末を使ってアンケートしてみましょうかね。端末もうまく使って、関心ももっと深めたいと思っています。

報告事項（１）特別支援学校の再編整備の進捗状況について

○特別支援教育課長　（資料に沿って説明）

○広瀬知事　高等特別支援学校というのは、就職を前提に考えてるわけですか。

○友成特別支援教育課長　実習を６００時間行いながら、一般企業への就職を考えています。そういった希望の方を入試で選抜して、学習させていくというように考えています。

○広瀬知事　なるほど。そうすると、雇用率があがるわけですね。

○友成課長　はい、あがります。

○広瀬知事　ずいぶん色々な仕事ができるんだね。彼らも嬉しいでしょうね。

○林委員　挑戦してどれがあってるかとか、色んなことを感じることができますので。

○岡本教育長　こちらの完成予想図、校舎に車が入れられるようになってまして、ホースもきてますから洗車ができます。もちろん企業にも実習に行きますが、校内でも洗車の練習ですとか、あるいは調理が出来るスペースを備えています。

○広瀬知事　南石垣支援学校は要するに変わるわけね。

○岡本教育長　変えざるをえないです。運動場の広さ自体が基準を満たさなくなっていますので。私が見学したときには、写真の砂利の部分まで車がはみ出していました。朝夕の送迎時には親御さんが乗り付けますから、危険度もあがります。そんなこともあって、移転せざるをえないだろうということで、どこがいいのか考えているところでして、あらかたの方針が決まりましたらご相談を。

○広瀬知事　どんどん早く探してください。

○岡本教育長　ありがとうございます。上２つ、鶴見校と石垣原校は、医療機関に付属する施設

ですので、動かせません。今あるところで、それぞれ古くなっていますから、順番立てをしながら、なるべく早く快適に過ごせるように改修していくという方向で考えたいと思います。

以上